

自立支援指定相談支援事業所「あさひ」のお知らせ

○主な事業内容…障がい者（児）または、その家族から相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行ないます。

① 福祉サービスの利用援助…サービス情報の提供、サービス利用の助言、介護相談、利用申請の援助、サービス調整、個別会議など。

② 社会資源を利用するための支援…施設、作業等の紹介、福祉機器の利用提言、生活情報の提言など。

③ 社会性活力を高めるための支援…身だしなみ、健康管理、趣味、余暇活動などの社会生活を高めるための助言指導など。

④ 権利擁護のための必要な援助…成年後見制度、地域福祉権利擁護事業の活用など。

⑤ 専門機関の紹介…障がい者のニーズに応じ、各種専門機関を紹介。

⑥ 虐待防止及び早期発見のための関係機関との連絡調整…障がい者虐待防止への対応など。

⑦ その他障がい支援に関すること

○対象者…原則として大仙市に居住する障がい者（児）の方、及びその家族の方。

○受付方法… ●専門の相談員がご自宅に伺い相談をお受けします。来所しての相談も随時受け付けます。

●また、当法人運営のケイメンタルクリニック（大仙市大曲駅前）にて出張相談も可能ですのでご利用ください。

○相談料…無料

連絡先

協和病院地域支援連携室内・指定相談事業所あさひ

月曜～金曜（国民の祝日、8月13日及び12月30日～1月3日を除く）相談支援専門員：浅沼・渡辺／相談補助員：藤井・藤原
TEL：018（892）2881 FAX：018（892）2888 e-mail：kyrenkei@sirius.ocn.ne.jp



グループホーム ケイハウス水仙を開設しました

昨年の10月に退院支援クラブを立上げ、多職種のスタッフによるチームで退院支援と地域移行について準備を進めてきましたが、いよいよ指定障害福祉サービス事業者の指定を受けて次のとおり事業所を開設することができました。精神療養病棟から4名の方が退院してグループホームでの新しい共同生活を始めております。



事業所の概要

事業所の名称	グループホーム ケイハウス水仙
事業所の所在地	秋田県大仙市協和船岡字大袋1番地34
事業所の電話番号	018-892-3011
事業所番号	0521200014
事業の目的	共同生活援助事業の適正な運営を確保するとともに、利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立った適切かつ円滑な援助を提供する。
事業所開設年月日	平成25年9月1日
事業所の敷地面積	330.47㎡(100坪)
事業所の延床面積	231.95㎡(70坪)
入居定員	6名
運営方針	利用者が、地域において共同して自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者の身体及び精神状況とその置かれている環境に応じて、共同生活住居において相談その他の日常生活上の援助を適切かつ効果的に行う。

編集後記

このたび、当法人各施設で作成発行していました“施設だより”を法人広報誌として取りまとめて発行することになりました。

広報誌の名称は、田園に囲まれた病院・各施設のイメージと理事長の名前を重ね合わせました。来年度に受審を予定しております病院機能評価の評価項目の一つに「地域への情報発信と連携」という項目があります。今回の広報誌発行を機に、積極的に情報を発信していきたいと考えています。（編）

基本方針

地域に根ざした医療、人にやさしい医療を確立し、向上心をもって常に努力する

七指針

1. 生命尊重に徹すること
1. 事故防止に努める事
1. 常に創意工夫を怠らないこと
1. 能率増進を図る事
1. 常に融和連携を保つこと
1. 消費節約に努める事
1. 行動記録を的確に記すること



医療法人慧眞会 広報誌

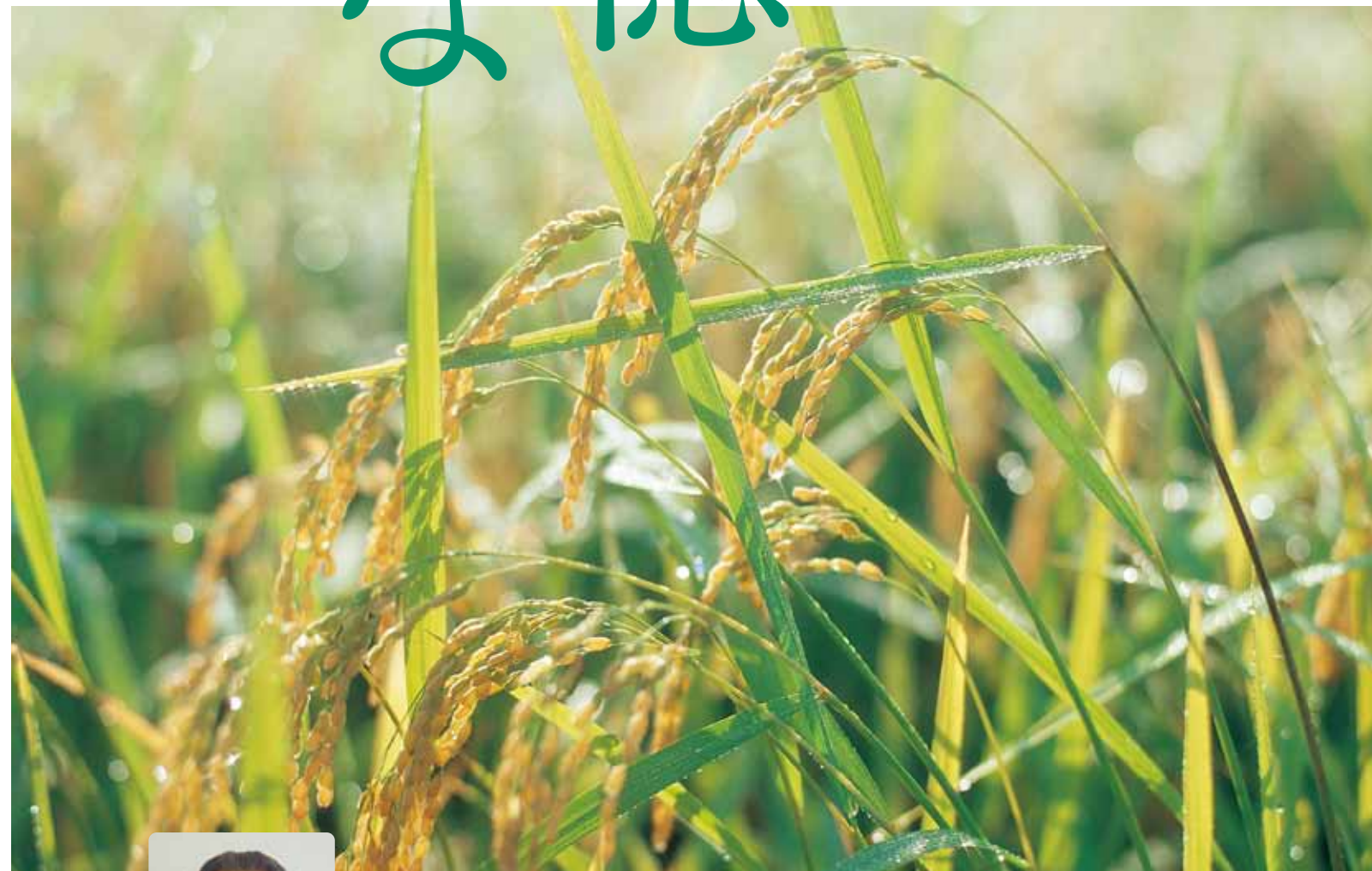
自由と自立 そして「愛」

いな穂

Vol. 1
10月号

基本理念

自由（個人の尊重を重視）、
自立（社会支援の積極的な取り組み）、
愛（思いやり溢れるサービスの提供）
を不変のテーマとした医療・保健・福祉の実践



ご挨拶

医療法人慧眞会 理事長 穂積 慧

10月に入りめっきり涼しくなりました。皆様方におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

今年の夏の秋田は、猛暑が続いた関東以西の各県と違い比較的涼しく過ごせたように思いますが、地域によっては豪雨の被害もあり大変な思いをされた方も多く、近年にない不順な気候だったようにも思います。

昨年の10月に協和病院の医療療養病床の施設転換事業として開設した有料老人ホームサンフェザントも、当初は病院の入院患者さんを有料老人ホームに移動して頂く予定でしたが、ご家族の方のご事情もあり思ったほどうまくいきませんでした。その後新規の入所者の方々の御利用が徐々に増えたことにより、少し時間もかかりましたが現在は高い稼働率で運営しており、改めて施設転換の困難さを痛感した次第です。

本年は、9月1日より障害者総合福祉法に基づくグループホーム「ケイハウス水仙」を、大仙市及び地域の皆様のご理解もいただき地元協和に開設いたしました。小さな事業ですがこの事業の推移をみながら精神障害者の方々の地域移行を更にすすめることを検討し、又訪問事業の拡大（医療、介護）も含めて在宅部門の充実も図ってゆきたいと考えております。来年は協和病院開院30周年、慧眞会設立25周年の節目の年ですが、消費税増税、診療報酬の改正、更に医療とも関係してきそうなTPPの参加交渉も国が進めており、大変難しい年になりそうな気がいたします。しかし何が变わろうとも、患者さん本位、利用者の方々本位の考えのもとで事業を展開してゆく所存ですので、今後とも宜しくご指導の程お願いいたします。



医療法人慧眞会

〒019-2413 秋田県大仙市協和上淀川字五百刈田 277番地 1
TEL 018-892-2881（代） FAX 018-892-2888
ホームページ <http://www.keishinkai.net/>

協和病院



人を動かす言葉ーメッセージー

協和病院 院長 善本 正樹

私は、元来怠け者な性分でした。出来ることなら、しんどいことはしたくない。人の性分として良くあるパターンです。それは、楽で幸せな毎日でした。朝はのんびりと仕事へ行って、“出来ない” “やれない” “忙しい” と言う言葉を繰り返しておけば良いのです。嫌な仕事は断り、楽な仕事をして、日々が幸せに過ぎていました。また、不健康な生活者でもありました。食べて、寝て、動かない。完璧・完全なメタボでした。

あるとき、自分が夢にまで見たものに会いました。そのものを通して、本当の楽しみを知り、仕事以外のさまざまな人と出会いました。大いに刺激を受けました。自分の怠け癖を変えないと大変なことになると悟りました。少しぐらいの苦労は当たり前であり、それがあから楽しみがあると気が付きました。楽しみや喜びは、努力の結果として生まれる。楽しみや喜びが、ホイホイと自ら来ることはない。楽な生活は、夢がないことを知り、きつぱりと楽な生活とは縁を切りました。

それから、規則正しい生活をして、食事をバランスよく食べて、運動を心掛けました。体重が減り、体が軽くなりました。また、仕事では、“出来ない” と安易に断ることを辞めました。体調が悪いなど特別な理由以外は、すべての仕事を引き受けました。“忙しい” と言う言葉を徹に慎みました（正しくは、“時間がない” と言うべき）。

そうすると、ドンドン仕事が増えました。辛いと思う日がありました。一方で、日々の生活から、今までに経験したことがない充実感や感謝の思いなど本当の喜びがあることに気が付きました。今の自分は、正しく道を歩んでいると考えるようになりました。

成功の反対は、失敗ではなく、何もしないことだ。
登山家の栗城史多の言葉です。

今までの自分、これから目指すべき自分を表現している言葉でした。

労苦を追い求めて仕事をする、束の間だけれど、何事にも代えがたい喜びがある。

世界を圧巻させた零戦を設計した堀越二郎の言葉です。ほんの少しですが、その境地が分かるような気がしています。

この世は生きるに値する。

アニメ映画監督である宮崎駿が引退時に述べた言葉です。力を尽くして生きることは、正しく生きる方法であると教えて頂きました。

人を動かすのは言葉ーメッセージーです。我々は、それを大切にしています。

作業療法科

「精神科作業療法って何？」

作業療法という言葉聞いたことはありますか？
多くの方は腕の骨折後に再び腕を動かすことができるようにリハビリをすること、などのイメージを持たれているかと思います。それも広い意味での作業療法ですが、精神科作業療法とは、病気のために「やる気がでない」「集中できない」「人と一緒にいることが苦痛」などの状態にある方々に、様々な活動を通して元の生活に近づくためのリハビリを行う治療のひとつです。

当院においては、手工芸を通して作業への集中力を高める、スポーツを通して身体を動かしながら意欲を取り戻すなど参加される方々の目的に応じられるよう活動内容をご用意しております。

その他、農耕プログラムも実施し、畑で土に触れ、野菜を育てながら汗をかき、自然に参加者同士の交流も深まるよう



です。間もなく実りの秋です。先日は里芋の収穫をしてきました。

これらの活動を通して、参加者の方々が自分らしい生活を取り戻すために、作業療法がひとつのお手伝いになれば、と思っております。

地域支援連携室

地域支援連携室は、医療連携、医療社会事業及び医療相談、心理臨床、精神科デイケアなど、多くの機能が統合された部署です。治療や健康の維持増進を、社会的・心理的な側面から支援することを目的に設置されています。精神保健福祉士・社会福祉士・臨床心理士・看護師等が、以下のような相談援助や連絡調整の業務を行っています。

【医療連携領域】

●医療連携の領域では、受診や入院に関連する連絡調整を行います。当法人内の諸施設や、外部の医療機関・介護施設・相談機関等からの入院・通院希望を受け付け、病院内の関係する部署に連絡して、受け入れ調整をします。逆に、当院の患者様等が他医療機関への入院・通院・施設入所を希望された場合は、外部機関や諸施設に連絡し、円滑な移行が出来るよう、連携に関する各種の調整を行います。

【医療社会事業・医療相談】

●医療社会事業・医療相談の領域では、治療や療養に関係する各種制度・社会資源サービス利用や、患者様の権利擁護に関する事務を中心に、多岐にわたる相談活動を展開しています。医療費の減額や助成に関する各種制度、精神障害者保健福祉手帳、障害年金、障害福祉サービス等の活用も視野に入れ、患者様等の地域生活を支援しま

す。それら以外の心理情緒的な相談、例えば家族関係や対人関係の悩み、疾病に関する不安などにも、傾聴して対応しています。

【心理臨床領域】

●心理臨床の領域では、クライアントの症状や特性を評価する「心理検査」（アセスメント）、悩みや問題についてお聴きし、解決と一緒に考える「心理面接」（カウンセリング）、心理臨床的なアプローチから、問題の原因や対応について考察する「調査研究」、職場や学校など地域コミュニティの心の健康作りを訪問してサポートする「心理臨床的地域援助」などを行っています。

【精神科デイケア】

●精神科デイケアの領域では、日中活動の場を提供することにより、在宅療養・通院治療をされているメンバーさん達のQOL（生活の質）の向上や、生活リズムの調整・健康の維持向上・再発防止を目指しています。手工芸・軽スポーツ・調理・レクリエーションなど、多彩なプログラムを楽しみながら、社会性や生活機能の改善がはかれます。メンバーさんにはグループホームの入居者も多いので、グループホーム生活に関わる相談などにも対応しています。

看護部

四季を彩る自然豊かな環境に囲まれている協和病院に勤務させていただき、まだ10ヶ月足らずです。基礎看護の教育現場から久々の臨床です。患者さんの“思いに寄り添える”看護対応を目指し、病院の方々から指導と協力をいただきながら、毎日の看護に懸命に取り組んでおります。私の知れた協和病院は、病院職員がそれぞれ患者さんと家族のような温かい関わりをしており、行事などでは、各部署毎に役割を持ち、一丸となれるチームワークがあります。

看護理念である『安全・安心の確保と自立への支援、そしてこころのケア』を基に、患者さんの意思を尊重した看護のあり方を見直ししております。新卒看護者もあり、新人教育には医師をはじめ、事務局、施設の専門職の方たちが、「患者さんの求められる看護に応えられるように」と指導をしてくれております。「自分たちも学習したい」とのベテラン看護者の声も聞かれるようになりました。排泄の苦痛を最小限にするため「オムツの勉強会」を毎月続けております。地域

における協和病院の役割を自覚し、地域社会での看護の役割を果たせるように皆で努力しております。

（総看護師長 小野康子）



TEL:018-892-2881 FAX:018-892-2888 〒019-2413 大仙市協和上淀川字五百刈田 277 番地 1



副施設長就任にあたって

介護老人保健施設 サングレイス副施設長
慧真会事務局 福祉部長 藤田 知也

2020年の夏季オリンピック開催地に、東京が選ばれました。私たちの世代にとっては2回目のオリンピックになるわけですが、第1回東京オリンピックのマラソンのゴール場面が悲しいくらいに思い出されます。大歓声の国立競技場に、2位で戻ってきた円谷選手がゴール間際に背の高い外国人選手に追い抜かれ、子供ながらに悔しい思いをした記憶があります。

この場面を、自分の胸に強く刻んだのは、追って知らされた彼の死でありました。言われなき重圧を背負わされ、疲れ果てたあげくに選んだ彼の死は、多くの人に衝撃を与えました。

さて、7年後の2020年といえば、自分にとっても定年を迎える節目の年となります。現役時代は、たとえば船の客であり、運転する人も沢山いましたが、退職後は、自分が運転しなければならない、本当の人生劇場が始まる年であります。

この3月、サングレイスに配属され、副施設長として何をすべきかという戸惑いから始まりました。27年の間、ソーシャルワーカーとして、ただ「人と関わる」ことだけを勤務しながら過ごしてきた自分にとって、マネジメント

業務はあまりにもかけ離れた業務であり、副施設長でありながら、まるで新入社員そのものでした。異動から半年が過ぎ、もがき苦しみながらも、何となく自分の立ち位置が見出せるようになってきた今日この頃です。

サングレイスとは、直訳すると「太陽の気品、恵み」という意味です。太陽は自分が明るく輝くことで、周りにいる存在までも一緒に照らしてくれます。そして、太陽は差別せず、どんな存在に対しても明るく輝いてくれます。私たち職員は、太陽のような存在になることを心掛けています。

利用者の方やご家族を明るく照らし続けることで、反対にまぶしいくらいの笑顔をいただくことがあります。どんなに雨が降っても自分の空は曇ることがないと思えた、そんな出合いを誇りに思う毎日です。

7年後の2020年、定年を迎えるオリンピックの年に、はたして自分は何をしているのか考えると心配になりますが、未来の自分は過去の蓄積からしか生まれません。サングレイスでの貴重な出合いを噛みしめながら、大歓声のサポーターはいなくても、右手を突き上げて、ゴールできるように肅々と走り続けたいと思います。



9月の敬老会では、協和保育園の皆さん14名が駆け付けて、元気いっぱい笑顔あふれる歌と踊りを披露して下さいました。利用者さんも元気をもらい、まぶしいくらいの笑顔を見せてくれました。

TEL:018-892-3260 FAX:018-892-3663 〒019-2413 大仙市協和上淀川字五百刈田 278 番地 5



介護付有料老人ホーム サンフェザントのご紹介

施設長 大場 進

有料老人ホームサンフェザントは、協和病院の療養病床転換事業として昨年10月15日に開設した、57床全室個室の介護付一般型の有料老人ホームです。スタッフは看護職員4名・介護職員15名・作業療法士1名・介護支援専門員1名・生活相談員1名を配置しています。

当施設の特徴は、医療のバックアップ体制とリハビリテーションの充実にあります。

医療面においては、同敷地内にある協和病院が訪問診療、往診等日常の医療提供はもちろんのこと、急変時においても完全バックアップ態勢をとっているのととても安心です。

リハビリテーションにおいては、常勤の作業療法士を配置しており、利用者一人一人に合ったリハビリテーションの提供が可能です。

また、地域で暮らしているときと同じような生活が少しでも継続できるよう、各種行事を通し利用者の方々に季節感や楽しさを提供しています。

当施設は、常に最高レベルのサービスで、落ち着いて安心でき心温まる環境を提供することをモットーに、その人らしく、尊厳の持てる生活を営むことができるようお手伝いしていきます。

サンフェザントの行事等の様子を紹介します

餅つき大会の様子



節分の様子



雑祭りの様子



運動会の様子



日々の様子



※他にも、季節にあわせた行事や、毎月の誕生会を行っています。

今後の行事予定

11月 ドライブ
12月 クリスマス会
1月 餅つき大会
2月 豆まき

※毎月映画会、誕生会があります

●サンフェザントご利用相談窓口

サンフェザントでは、ケアマネジャーが常時ご相談に応じています。介護保険のことであれば、入居のご相談以外も受け付けますのでお気軽に声を掛けてください。

TEL:018-853-8990 FAX:018-892-3033 〒019-2413 大仙市協和上淀川字五百刈田 277 番 5



グループホーム サンエルフ

サンエルフの定員は 1 ユニット 9 人 ×2 ユニットの計18人で、平成 16 年 4 月に開設し今年で 10 年目になります。

地域の方々、入居者の方々、入居者のご家族の方々、また関係機関のご理解ご協力のおかげで現在に至っております。

グループホームは、介護を必要とする軽度の認知症を有する方が、家庭的な環境のもと、これまでの生活リズムを保ちながら少人数（1 ユニット 9 人）で共同生活していただく施設です。入居できる方は、要支援 2 か要介護認定を受けており、認知症はありながらも、食事の支度、掃除、洗濯等を含め、ある程度自立できており、共同して家庭生活を送れる方が対象となります。

サンエルフでは「安心してその人らしい日常生活が送れる環境を提供していく」という理念に沿い、家庭的な雰囲気を保てるよう心がけています。自宅で使用していた椅子や鏡台を持ち込んでいる入居者の方もいます。正月や節分、おひなさまなどの行事、お誕生会を行い、花見や買い物などのレク

リエーションに出かけます。また、季節の食材を使いスタッフと入居者の方と一緒に調理しています。

入浴後の洗濯では、洗濯機の操作、干す、取り込む、たたむ、収納の一連の作業を見守りし不十分な部分を手伝っています。スタッフのほんの少しの手助けでできる事がふえてくると、入居者の方の自信にもつながりスタッフも嬉しくなります。

その他に歌やおどり、フラダンスのボランティアもあり日常生活の楽しみのひとつになっています。

数年前から日本赤十字秋田短期大学の実習生を受け入れており、今年は 1 名の学生が 5 日間入居者の方と接しました。入居者の方も自分のお孫さんに対するような笑顔と眼差しで対応していました。

入居者の方が健やかで安心して生活できるようスタッフは感覚を研ぎ澄まし寄り添いたいと思います。



TEL:018-881-6565 FAX:018-892-3639 〒019-2413 大仙市協和上淀川字五百刈田 277 番地 1



ケイメンタルクリニック便り

ごあいさつ

ケイメンタルクリニック 所長 関根 篤

健全な精神は健全な身体に宿るといいます。現代社会では、生活上の多くのストレスによって様々な体調変化を来すことも少なくありません。ケイメンタルクリニックはそれらの悩みごとを気軽に相談いただける、そんな「空間」でありたいと願っています。

カウンセリング及び相談支援業務の紹介



- 臨床心理士や精神保健福祉士が担当します。
- カウンセリングでは、悩みや問題をお聴きし、一緒に考えることによって、気持ちの整理や解決に向かう為のお手伝いをします。また、患者さんの状態や特性を把握する為、心理検査を行うこともあります。（カウンセリング・心理検査は、主治医の指示が必要です。）

- 各種制度や社会資源の利用を希望される場合は、手続きに関する相談や、関係機関との連絡等の支援も行っています。

TEL:0187-66-3020 FAX:0187-63-0041 〒014-0027 大仙市大曲通町10番8号

小規模多機能型居宅介護事業所 ケイケアセンター

小規模多機能居宅介護とは？

通い（デイケア）サービスを中心に泊まり（ショートステイ）や訪問（ホームヘルプ）サービスを組合わせながら利用していただき、在宅生活を安心・安全に送れるように支援していくのが小規模多機能型居宅介護です。

また地域密着型サービスでもあり、住み慣れた地域で今まで通りに生活していただくように支援していくのも小規模多機能型居宅介護の役割です。

※例えば・・・いつも行っている将棋教室に行きたいが、一人では難しいなどといった方や一人で定期受診が困難だという方への支援も行ないます。

精神科訪問看護のご案内

精神科訪問看護とは自宅やアパートなど、地域で生活している患者さんの不安や悩みに対して、当院スタッフが普段生活している場所へ定期的に訪問して、生活を支援する制度です。日常の生活場所で、体調の評価、症状の対応（本人または家族）、日常生活の援助、家族関係の調整、社会資源活用の援助、より良い生活のアドバイスなどを行います。1 回の訪問時間は30分から60分程度、月に2回を原則として、訪問いたします。各種健康保険、自立支援医療制度が利用できますので、主治医またはスタッフにお気軽に相談してください。



診療体制

	月	火	水	木	金
午前 9:00~12:00	関根	関根	善本	関根	吉尾 関根 (第2・4週)
午後 14:00~16:00	関根	三島 関根	善本 穂積	関根	吉尾

- 土曜日・日曜日・祝祭日は休診です。
- 予約制となっておりますので診察を希望される方は、予めご連絡くださるようお願いいたします。

※例えば・・・月・水・金曜日はデイサービスを利用、火・木曜日は訪問サービスを利用、土・日曜日は泊まりサービスを利用するといった、その人その人に合わせたサービス内容を考え、御利用者・御家族が安心して過ごせるようにサービスを提供いたします。

●登録定員は25名 ●通いの定員は15名/日

●泊まりの定員は7名です。どんなことでも相談ください、随時見学も受け付けています。

TEL:018-881-6166 FAX:018-892-3474
〒019-2411 大仙市協和境字苅り谷沢10（担当 高橋）

第五回 ケイケアセンター夏祭りの様子です。



男性職員もボランティアの方々と一緒に踊っています（踊らされているかな）。



ボランティアの方々のこっけいなショーにみんな大笑いでした。

